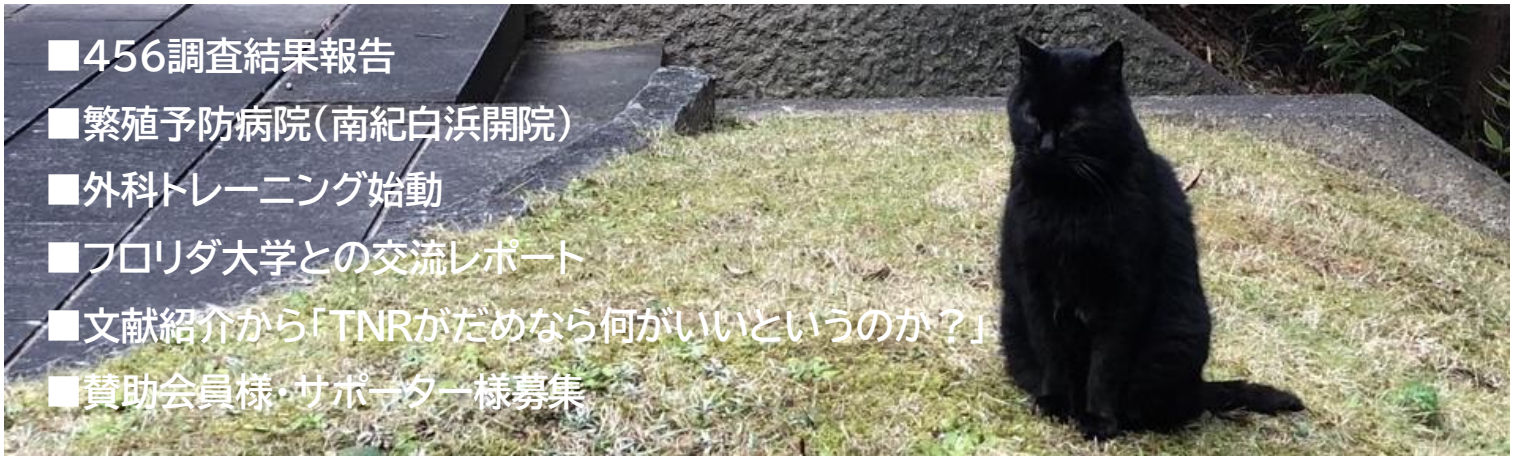
Be the Humane Impact for Japan!

Spay Vets Japan

Times

2024.1
Vol.2



■456調査結果報告
■繁殖予防病院(南紀白浜開院)
■外科トレーニング始動
■フロリダ大学との交流レポート
■文献紹介から「TNRがだめなら何がいいというのか？」
■賛助会員様・サポーター様募集

一般社団法人Spay Vets Japan
スペイベッツジャパン

〒581-0014 大阪府八尾市中田４丁目136-3
Email: info@spayvetsjapan.org

https://spayvetsjapan.org

Project
4・5・6調査

猫の過剰繁殖問題解決のために、世界最大の獣医師の団体である米国獣医師会（American Veterinary Medical Association）は、2017年、猫の不妊去勢手術を5か月齢までに行うことを支持する方向に舵をきりました。これには、猫は早くて4か月齢より発情・妊娠するという現実があったのです。アメリカでは、長年、日本と同様に根拠なく猫の不妊去勢手術を6か月齢まで待つ文化でしたが、現在ではアメリカの14の州獣医師会がこれを支持し、多くの動物愛護団体が5か月齢以下での不妊去勢手術に賛同しています。

2022年に当会は独自で、全国の動物病院におけるメス猫の不妊手術の推奨年齢を問う内容のアンケート調査を行いました(2023年4月に発行した当会会報誌創刊号に詳細を掲載）。その結果、84.7%の動物病院がメス猫の不妊手術推奨時期を6か月齢以降としていることがわかりました。つまり、発情・妊娠のリスクを抱えた4か月齢・5か月齢のメス猫が不妊手術を受けられず、6か月齢になるまで手術を待っている状況にあることが推測されたのです。

当会では、この待ち時間の間に多くの望まぬ命が生まれることをリスクであると考えます。では実際、どのくらいの4・5・6か月齢のメス猫が発情・妊娠をしているのか。その実態を調べるため当会会員獣医師が執刀した6か月齢以下のメス猫の発情および妊娠状況を調査しました。

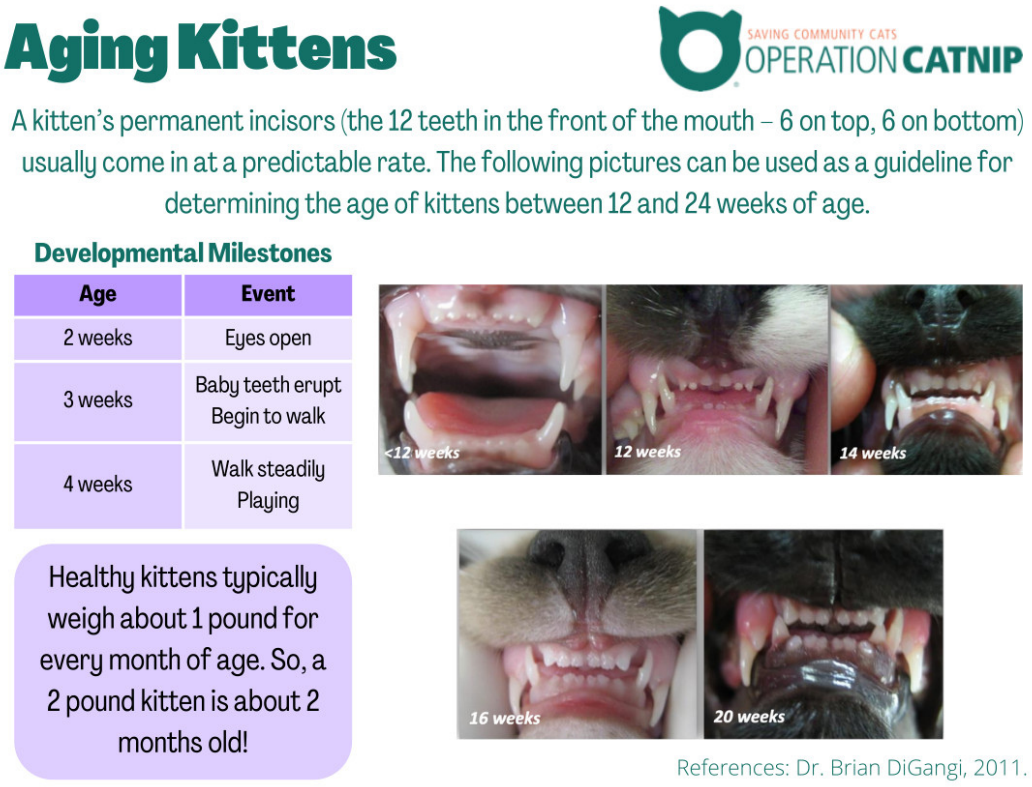
調査方法

【1】調査対象施設および猫について

当会の会員獣医師9名（北海道・茨城県・静岡県・長野県・岐阜県・大阪府・兵庫県・徳島県）が執刀した6か月齢以下のメス猫を対象とした。

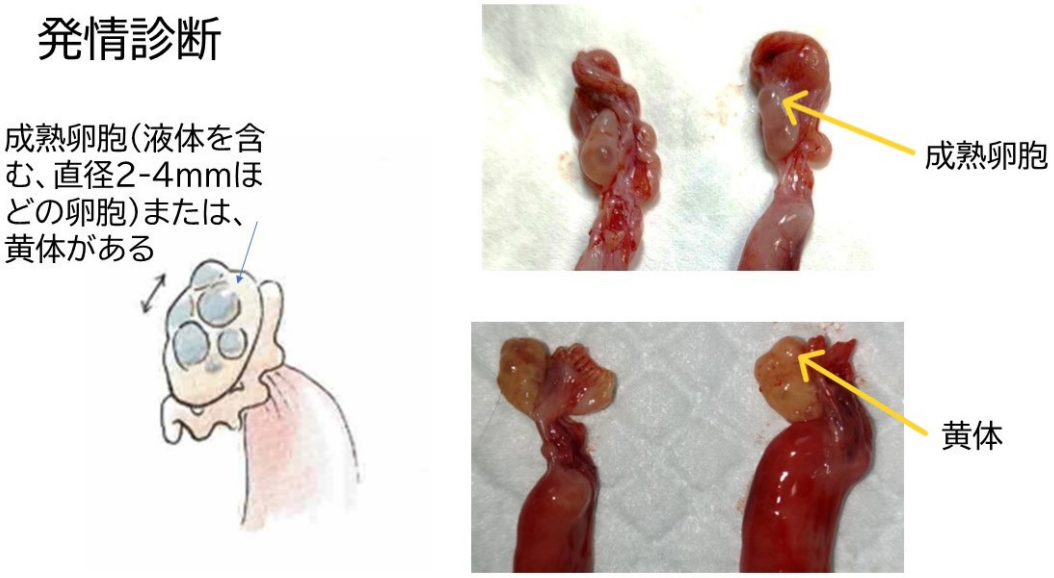
【2】年齢の判断について

年齢については門歯と犬歯に関して乳歯および永久歯の残存状況を目安とし、判断した。
（下図参照）。
門歯と犬歯が乳歯の場合を4か月齢未満、門歯が永久歯で犬歯が乳歯の場合を4～5か月齢未満、門歯が永久歯で犬歯が生え変わり中である場合を5～6か月齢未満、門歯も犬歯も永久歯で生年月日がわかる猫に関して6～7か月齢未満の個体を調査対象とした。



【3】発情の判断について

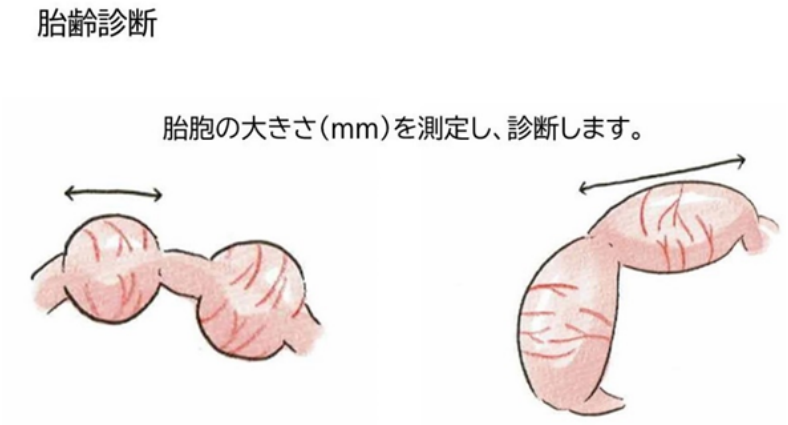
発情であると判断する目安としては成熟卵胞および黄体の有無で決定した。



【4】妊娠推定年齢の決定方法

胎齢から逆算した。

胎胞（mm）長軸	胎齢（weeks）
8～9	2
15～18	2～3
30	3～
40～50	4
60～75	5
85～90	6
90～95	7
110～115	8
120	9



【5】産後授乳している場合

誕生日が明確な猫に限り、60日前の時点で4か月齢または5か月齢である猫を対象とした。

【6】期間

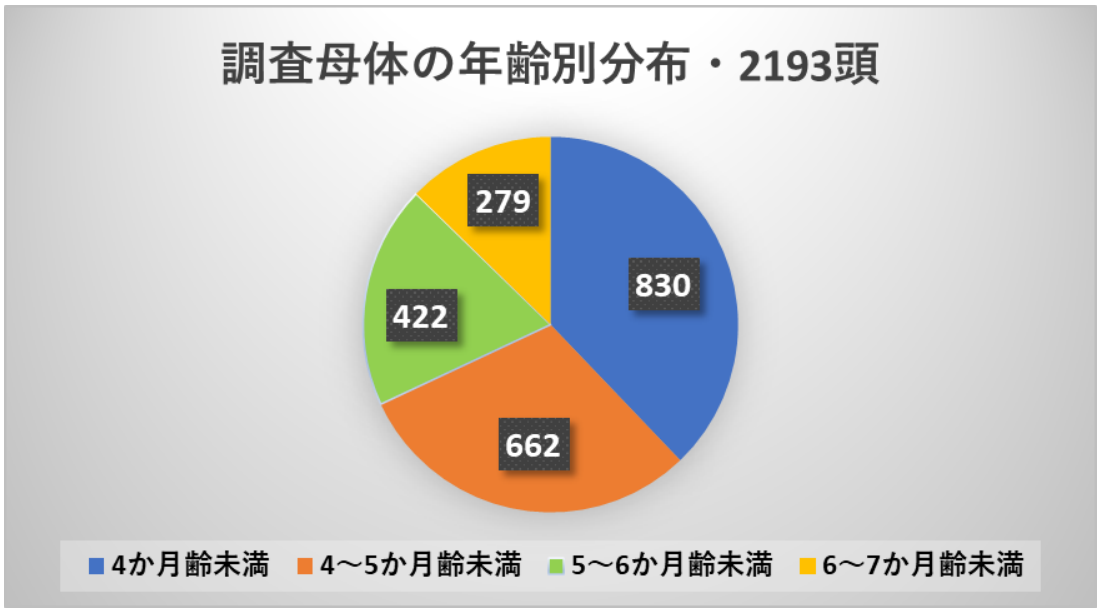
2022年7月～2023年6月末

調査結果

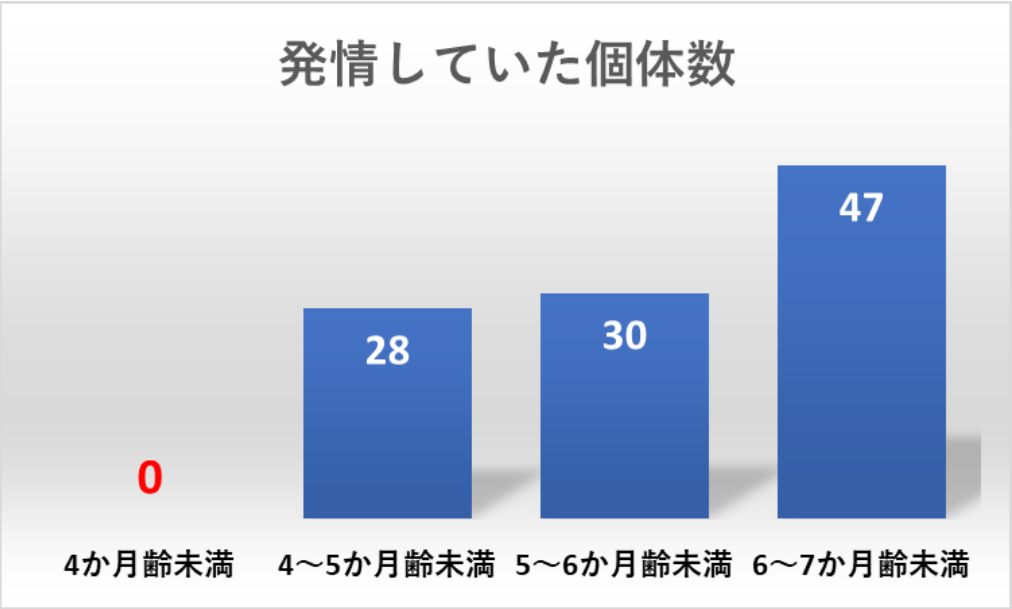
調査母体数は全頭で2193頭であり内訳を表１に示した。最も多かったのが4か月齢未満の830頭で全体の約37.8%を占めた。5か月齢未満の個体数は1492頭で全体の68%であった。

発情個体数は105頭であり内訳を表2に示した。4か月齢未満では発情はみられなかった。最も発情していたのが6～7か月齢未満のメス猫47頭で、6～7か月齢未満のメス猫全体の16.8%を占めた。次に発情が多く見られたのは5～6か月齢未満のメス猫30頭であり、5～6か月齢未満のメス猫全体の7.1%を占めた。また、4～5か月齢未満のメス猫では28頭もの仔猫が発情しており、4～5か月齢未満のメス猫全体の4.2%を占めた。

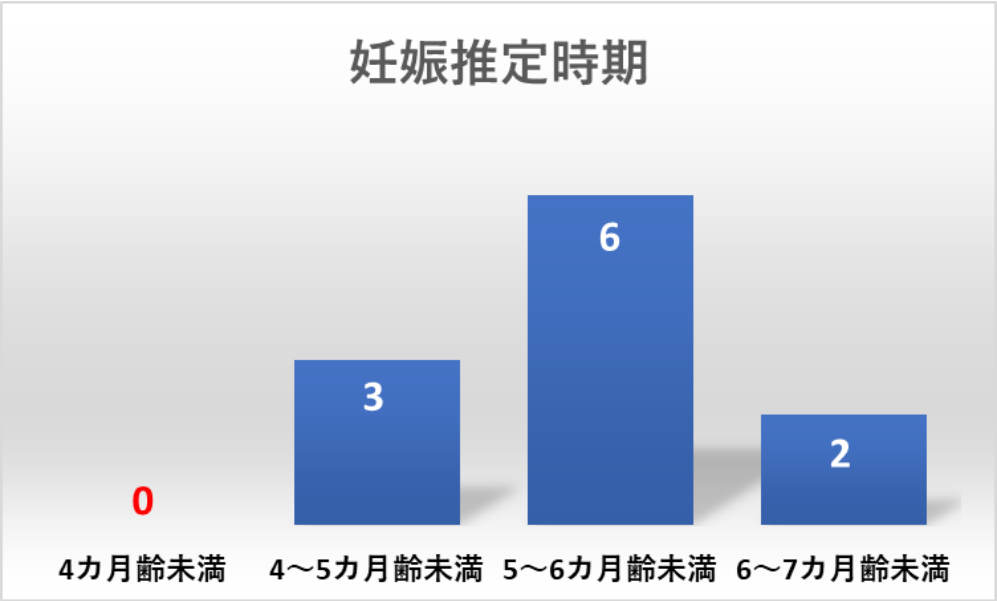
既に妊娠している個体について、胎齢より妊娠推定年齢を逆算した結果を表３に示した。5～6か月齢未満で妊娠した個体が最も多く6頭、4～５か月齢未満の妊娠が推測された個体は3頭もいた。産後授乳中のメス猫は確認されなかった。



（表１）調査母体の年齢別分布



（表2）発情していた個体数



（表３）胎齢より逆算した妊娠推定時期

考察

調査母体数に関して、今回調査を行った執刀獣医師は、早期不妊手術を積極的に行っているため4か月齢未満の仔猫の個体数が多くなったと考えられた。4か月齢未満に不妊手術を実施した仔猫は発情・妊娠が見られず、このことは、初回発情前に不妊手術を施すメリットとして考えられている乳腺腫瘍発生率の減少、子宮蓄膿症の予防、予期せぬ妊娠の回避が期待できると思われた。

注目すべき点は、4〜5か月齢未満で発情していたメス猫が4.2%確認されたという事実、同月齢の個体の内3頭が妊娠していたということである。これにより4か月齢から発情及び妊娠が可能であるという事実が確認された。さらに5か月齢以上のメス猫の11%で発情がみられ、8頭の妊娠が確認されたことから、5か月齢を過ぎると発情・妊娠率が急増し確実に予期せぬ出産が起こりうると考えられた。確実に予期せぬ出産を回避するためには、5か月齢までに不妊手術を施すことが重要であると考えられる。

一方で日本では、未だに一部の飼い主に不妊去勢手術の重要性が浸透しておらず、室内で猫を過剰に繁殖させ多頭飼育問題を引き起こすケースや、未手術の猫に家の内外を自由に行き来させる等の不適正な飼養が認められる。このような実態が、飼いきれなくなった猫の遺棄や野良猫の増加につながり人の生活を脅かす社会問題を深刻化させている。

米国では2021年に猫の不妊去勢手術の推奨時期を問う全国調査が行われ、61%の獣医師がメス猫の不妊手術を5か月齢以下で行うことを推奨していることがわかった。また、オス猫の去勢手術も51%の獣医師が5か月齢以下で実施することを推奨している（性成熟前の去勢手術は、猫を手放す要因となりうる喧嘩、スプレー行動などを減少させるとされているため）。

今回の調査により得られた4,5,6か月齢のメス猫における発情及び妊娠の実態、日本が抱える過剰繁殖の現状、米国の不妊去勢手術に対する意識の変化を総合的に判断すると、日本でも不妊去勢手術を6か月齢まで待つことなく、猫の不妊去勢手術の推奨時期は、メスもオスも5か月齢までに実施するという新常識を広めることが、日本での猫の過剰繁殖問題を解決に導く最も有効な手段と考えられた。

参考：

- Feline Sterilization at 5 months accepted as new normal (March 4, 2022 Philip A. Bushby, DVM, DACVS 著)
- Shelter medicine for veterinarians and staff 2nd ed
- References: Dr. Brian DiGangi, 2011.
- 獣医繁殖学 第2版
- pet-informed (Fetal Kitten Aging - What Stage of Cat Pregnancy Has My Female Cat Reached)

●456調査を終えての検証

4・5か月齢の仔猫の4.2 %が、いつでも妊娠できる状態であることが判明しました！

前号で紹介した「全国開業医アンケート調査」で、日本の84.7%の動物病院が犬猫共に6ヶ月齢以降での不妊去勢手術を推奨していることが分かりました。言い換えれば、発情・妊娠のリスクを抱えた多くの4・5か月齢の猫が、不妊去勢手術を待っている状態だということが分かります。今回の456調査では、4か月齢以上6か月齢未満のメス猫1084頭のうち、58頭の発情を確認し、9頭がすでに妊娠していることを確認しました。4・5か月齢の仔猫の4.2 %が発情し、いつでも妊娠できる状態である計算になります。6か月齢以降での不妊去勢手術が主流となっている現在、4・5か月齢の仔猫達には手術を受けられるまでの待ち時間が存在します。私達はこの「待ち時間」こそが望まぬ出産のリスクだと考えており、今回の調査でそのリスクが4.2 %もあることが分かりました。

望まぬ出産は、不自由なく生きる権利を与えられない、行き場のない猫の増加を許してしまいます。動物の尊厳（Quality of Life）を守るべき私達獣医師は、このリスクを猫達に負わせるべきではないと考えます。

幼齢個体での不妊去勢手術に関する副作用は特に報告されていません。アメリカでは、2017年の時点ですでにA.V.M.AやA.A.H.A、A.A.F.Pといった米国獣医師会が、猫の不妊去勢手術の適齢期について、6か月齢以降が望ましいとされてきた、これまでの風習を見直すことを支持しています。早期不妊去勢手術の普及活動を行うFeline Fix by Fiveの代表Estherさんは、「5か月齢までの手術の普及により、毎年全米のシェルターに入る猫と同等の数の命を予防できる」と述べています。そして2021年、上記の獣医師会が正式に「猫では5か月齢までの不妊去勢手術」を推進するに至り、それを取り入れる米国の開業獣医師が過半数を超えました。

もう迷う必要はありません！日本もこれに続きましょう！

仔猫の妊娠リスクゼロのために、

今日から、「5か月齢までの不妊去勢手術を」を実践しましょう！

Spay Vets Japan

犬猫繁殖予防病院

（南紀白浜）

Cat and dog birth control clinic

5年間の集中不妊去勢手術で南紀の犬猫手術普及率を徹底的に上昇させる！防災目線でのモデル事業が、2023年9月、スタートしました！

2023年9月和歌山県南部にて当会の運営する犬猫繁殖予防病院（南紀白浜）が、動物愛護団体Wanlife（ワンライフ）様のご協力のもと開院しました！

営利目的のスペイクリニック事業ではなく、5年間という期限を設け、効率の良い不妊去勢手術の普及を企画しながら、様々なミッションを行っていくための事業です。

その大きな柱の一つが、「災害前の犬猫の不妊去勢手術を徹底する」ことです。防災目線からの手術普及率を上げることがいかに重要かを示すためのモデルケースを作りたいと考えています。そのため、南海トラフ地震の影響が心配される南紀を、事業の地に選定しました。

本事業を通して、一つのスペイクリニックが南紀白浜の地にどのような影響をもたらすのか。日本初の壮大な企画が今、始まりました！

Mission 1: 防災目線での不妊去勢手術の普及

過去のどの震災でも、震災後に被災地で犬猫の過剰繁殖が起こる現象がみられています。不妊去勢手術を受けていないペットが被災動物となり、野外で繁殖してしまうことが原因です。東日本大震災でも、飼い主を無くした犬猫達の子孫、またその子孫たちが、被災地に多く放浪する結果となりました。災害後にボランティア団体が放浪動物のレスキューやTNRに乗り出しましたが、被災ペットへの義援金として集められたお金は、その子孫達の救済や不妊去勢手術には充てられなかったそうです。私達は過去の教訓を活かし、震災後にレスキューに向かうのではなく、被災動物を増やさないために平常時から不妊去勢手術を普及させておくことこそが、防災のために今やるべきことだと考えます。

「震災前の不妊去勢手術の徹底で、
震災後の放浪動物を最小限に抑えたい。」

ここ南紀の地を日本初のモデルケースとして成功させたいと考えています。

➡東日本大震災での1例(写真提供:遠藤獣医師)

原発事故で避難し、1か月後自宅に戻ると、近隣に置き去りにされ、やせ細った猫たちが餌を求めて集まるようになっていました。その後、餌を与え続けていた結果、野外で繁殖し22匹まで増えてしまいました。

(川内村)

地元メディアからもご関心をいただき、テレビ和歌山・毎日新聞・紀伊民報・日高新報で紹介されました。

紀伊民報 2023年(令和5年)9月28日 木曜日 第24361号 日刊

上富田に動物病院

不幸な命減らそう 不妊去勢手術に特化

猫や犬の過剰な繁殖を抑制し、殺処分などの不幸な死を減らそうと、上富田町朝来に今月、猫・犬の不妊去勢手術専門の動物病院がオープンした。費用は一般の動物病院に比べて低価格に設定。病院を運営する団体の代表理事の橋本恵莉子さん(40)は「行き場のない命を生まないために、手術を普及させたい」と話している。

運営しているのは、犬猫の殺処分を失くす会を紀南の不妊去勢手術の普及を通じて目標にする一般社団法人「スペイ・ジャパン(SVJ)」(大阪府)。全国の獣医師らが参加する組織で、行き場のない命の誕生を未然に防ぐため、メンバーは普段それぞれの動物病院で活動している。

今回は、同町の動物愛護団体「ワンライフ」(島田みゆき代表)の協力で、初めて「SVJ」として動物病院を開院した。名前は「スペイ・ジャパン大阪繁殖予防病院(南紀白浜)」。地元ボランティアらと連携しながら、過剰繁殖により行き場のない犬猫の殺処分が問題となっている地域の問題解決にもつなげていく。

開院は原則毎週木曜日。前日までに予約が必要で、費用は猫1匹5500円、猫の場合は4~5カ月齢から発情・妊娠することが分かっており、同院では「手術する犬の場合は体格や乳南が残っているなどで費用が異なるため、以下の子猫も4400円で、個別に問い合わせてほしい」という。

不妊去勢手術に特化した動物病院は全国で増えてきているが、県内ではまだ少ない。同院では、年間千件の手術を目標にする。野良猫の捕獲などの相談にも応じる。

橋本さんは「手術のハードルを低くし、普及を進めたい。これは社会的な挑戦でもある。紀南での取組みが全国のモデルケースになればいい」と話している。

予約、問い合わせは、同院の電話080・7447・7666、午前9時~午後6時。SVJホームページの予約フォーム、メール(info@spayvetsjapan.com)で受け付けている。

手術をするスペイ・ベッツ・ジャパンの獣医師(上富田町朝来で)

田辺

紀南の2頭が入賞 熊野牛の子牛品評会

田辺市秋津町の県熊野牛子牛市場で28日、品評会があった。「去勢牛」と「雌牛」の2部門に計37頭の出品があり、紀南からは「去勢牛」部門の秀賞1席に白浜町安宅の尾崎春巳さん(82)の「美津桜(みつさくら)」、優秀賞3席には串本町田原の見瀬魔鳥子さん(45)の「銀杏(ぎんなん)」が選ばれた。

南部農家を中心に町村をつくる熊野農業者協議会の主催、県内13市町の畜産農家21戸が、生後7~9カ月の子牛を出品した。

県畜産試験場(すさみ町見老津)の豊王成場長(58)は「一般の高校を卒業後、畜産の道に進んだ。豊王場長は一般代の高校などから審査した。

豊王場長は「牛は人間と同じ。一つ一つ、個性がある。自分で判断できる子牛をつくりたい」と話した。

田辺市千屋敷町の喫茶店「喜楽珈琲館」男藤一一中さん(64)が経営。で28日から10日に、故・玉井武さんの水彩画作品展が開かれる。紀南の風物や枯れたハ

故・玉井さん 田辺の喫

日高新報

ご予約承ります
鯖あせ寿司
今、本店にて販売中
日高屋本店
☎22-0811

過剰な繁殖を防ぎたい
上富田に去勢手術専門病院

愛猫家に朗報

犬や猫の過剰な繁殖を予防しようと、不妊去勢手術を専門に行う「犬猫繁殖予防病院 南紀白浜」が今月7日、上富田町朝来にオープンした。多頭飼育崩壊や殺処分を減らすことを目的に5年間の期間限定で開院する。主に猫の手術を手がけ、飼い猫や野良猫の手術を受けさせる。紀南だけでなく日高地方や有田地方からも問い合わせがあり、野良猫の繁殖で困っている地域の問題解決にもつなげていく。

ペッツ・ジャパン(SVJ)=====起き=たとき、避難所に連れていけないペットが被災地で過剰に繁殖が、同町の株式会社Wanlife(ワンライフ)と連携し毎週木曜日に開院。法人の発起人でもある大阪府在住の獣医師・橋本恵莉子さん(40)が院長として執刀する。

橋本さんは「過剰な繁殖で助けてあげられない命が増えている根本は予防にある」と、手術は5カ月以下の子猫で4400円、6カ月以上の成猫で5500円。時間も10~15分程度で日帰り手術が可能とあって県内各地の動物保護団体や個人からも多くの猫が持ち込まれている。

21日は有田市万呂で猫の保護活動を行う「猫のひだまり」が8頭を連れて来院。猫は6月の豪雨で浸水した徹底に努めたい」と話した。

2日の豪雨で浸水した徹底に努めたい」と話した。

開院時間は毎週木曜の午前9時から。予約は080・7441

猫に麻酔を打ち手術の準備をする院長の橋本さん

病院は全国の獣医師・法人Spay Vets Japan(スペイ)で結成された一般社団

交通安全の花咲

かわへ保 御坊署にひまわり

会で里親を募集する。代表の江川美奈さんは「手術後の傷も小さく回復も早いのでとても助かっています。手術が受けられる施設があることで安心して里親に出せます」と話す。橋本さんは「犬猫の過剰な繁殖は地域の問題でもあります。この5年間で保護団体や行政との連携も深めながら、不妊去勢手術の

▲紀伊民報2023年9月28日掲載

▲日高新報2023年9月27日掲載

Mission 2：効果的なTNRを実証する

TNRモデル地区を選定し、徹底した高密度TNRとその後の見守りを行うことで、TNRは野良猫の頭数管理において効果があることを科学的に実証するとともに、その正しい方法をモデルケースとして発表します。

この事業を通して、「TNRは効果的だ」との社会的認知度と評価を向上させます。

Mission 3：獣医師同士の交流

普段は1人で執刀している全国の獣医師が複数名で一緒に執刀することを通して、貴重な技術交流の場になります。 悩ましい症例を獣医師同士で意見交換しながら処置を行う経験や、自身よりもキャリアのある獣医師と共に執刀することを通して、獣医師は成長します。南紀で全国の獣医師が共に執刀することが、南紀の犬猫だけでなく、全国の犬猫達を助けることにもつながります。

2023年には、9名の会員獣医師が参加しました。

さらに、当病院では会員以外の獣医師も見学に来ていただけます。多くの獣医師に、高回転の手術現場を見学いただけたら幸いと考えています。2024年2月には、会員以外の先生も参加可能な犬のデモオペを予定しています。

Mission 4：スペイクリニックの存在が、地元住民の意識にどのような影響を与えるのかを調査する

飼い猫・飼い犬・野良猫に対する、不妊去勢手術に関する住民の意識調査について、調査開始時（開院後1年以内を目指す）と閉院後（5年後）のそれぞれで同調査を行い、手術普及率を分析します。また、この調査を通して、スペイクリニックの存在意義や、地元住民の意識変化、繁殖管理において獣医師に求められるものを検証したいと思います。

■外科実習トレーニング本格始動！

大門獣医師をリーダーとするトレーニングチーム（大門獣医師・平野獣医師・飯島獣医師）が、大門獣医師のWVSトレーニングセンター訪問時（創刊号参照）の経験を参考に、Spay Vets Japan独自のトレーニングプログラムを考案しました。そして、2023年6月11日㈰には第一回目となる不妊去勢手術外科実習トレーニングデイを開催しました！

▲トレーナー平野獣医師

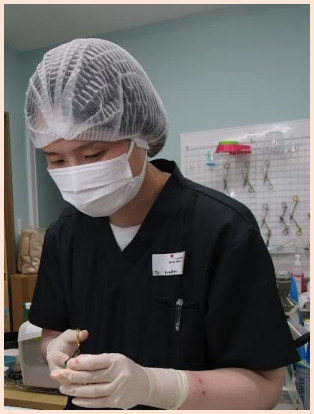
▲トレーナー飯島獣医師

4名の執刀実習医、4名の見学獣医師が参加し、オス猫4頭とメス猫14頭での実習となりました。

指導医1名につき実習医1名がマンツーマンで指導にあたり、見学獣医師が交代で麻酔管理と記録を行いながら1頭1頭を丁寧に、密度の濃い執刀実習が行われました。実習医にとっても見学者にとっても、大変有意義で確実に将来に活きる一日となりました！

私達は、獣医師を育てる活動こそ、
最も将来に活きる活動だと考えています。

現在日本中でスペイクリニックの必要性が叫ばれていますが、全国に数少ない、高回転手術に対応できる獣医師が引っ張りだこになっている状態です。
多くの犬猫達を救うためには、まだまだ獣医師の手が足りません。
私達は全力で、獣医師を育てる活動を進めて参ります。



チームリーダー大門みゆき獣医師

■トレーナーからの一言

トレーニングは、手術経験の浅い獣医師から、手術経験はあるが1日20匹以上の高回転の手術を習得したい獣医師まで、会員であればだれもが参加できます。トレーナーとマンツーマンで一つ一つの手順を確認しながら、安全で確実な手術を実践してもらいます。時には手術の動画を撮影しながら、どうしたらもっと効率的で無駄のない手術になるのか一緒に確認したりもしています。

トレーニング終了後には、細かい評価基準に沿って点数化したものと、各手順の所要時間から総合評価を割り出し、それを実習医にフィードバックすることで、現時点での課題を明確化し、目標に向かってサポートできるよう指導しています。

客観的な評価基準を設定することで、今後行政施設や大学施設でのトレーニングにも繋げていきたいと考えています。

■2024年
デモオペ
＆ トレーニングデイ開催予定

1月10日(水) 第2回トレーニングデイ
2月17日(土)
　　18日(日) 犬の不妊去勢手術デモオペ
4月10日㈬ 第3回トレーニングデイ
7月15日(月・祝) 第4回トレーニングデイ予定
10月14日(月・祝) 第5回トレーニングデイ予定

獣医師を育てる活動には、皆様のご協力が必要です！

■トレーニングでの執刀であることをご理解いただいた上で、執刀に同意いただける猫さんの協力が不可欠です。手術費用はいただきません。トレーニングへの参加ご協力をお願い致します。

■活動には運営資金が必要です。継続的なトレーニングのため、皆様の暖かいご支援を何卒お願い致します。(詳しくは巻末のご寄付のご案内をご覧ください)

■フロリダ大学との交流

Shelter Medicine Program at the University of Florida facebookより

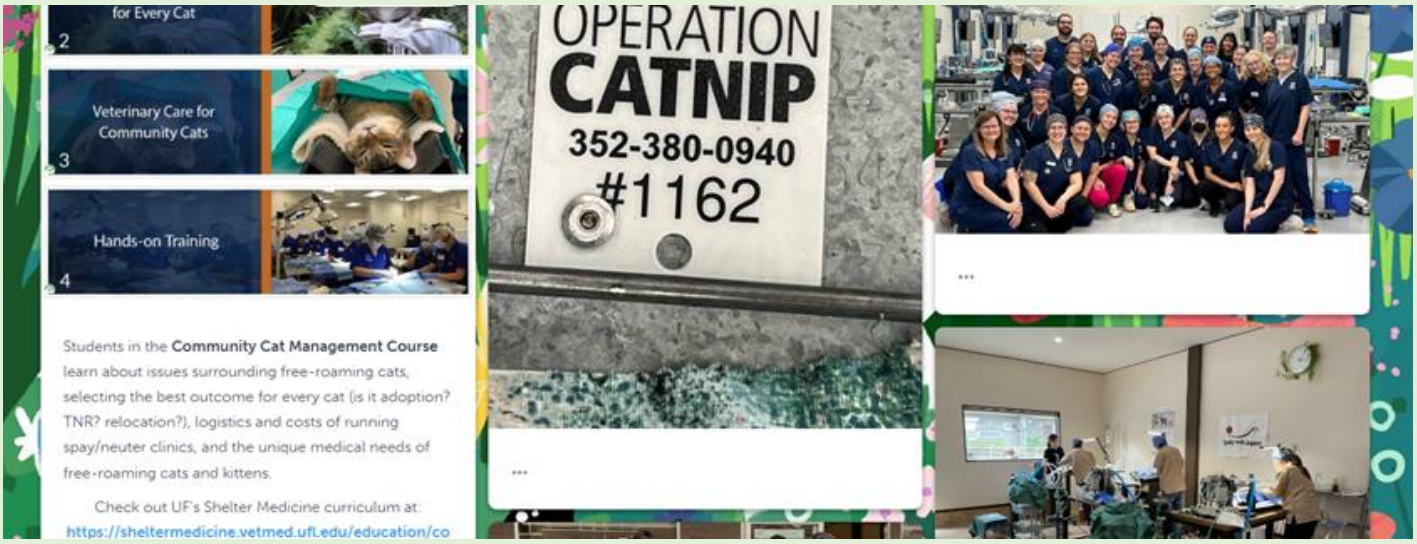
フロリダ大学が本気で取り組む、野良猫管理と獣医学生教育とのコラボレーション

フロリダ大学のCommunity Cat Management コースでは、学生が地域猫や保護猫活動に関するあらゆる知識やノウハウを勉強した後、猫の不妊去勢手術に必要な技術・プロトコールを予習し、最後に実際の野良猫の手術実習に臨みます。

2023年の秋は、フロリダ大学において11名の学生により170頭の猫に不妊手術が施されました。

野良猫管理における権威であるジュリー・K・レヴィ―教授（論文「地域の猫」の高負荷一斉TNRと譲渡がシェルターの受入れに及ぼす影響について」・「長期的展望：野良猫の管理方法とその実施密度が猫の「防ぎえた死」に及ぼす累積効果について」を研究発表）のご厚意で、本コースで手術実習前に学生が受けるオンライン授業に、私達も参加させていただきました！そして後日、学生へのコーチングプログラムを築いたパトリシア・A・ディングマン獣医学修士とオンラインで対談する機会をいただき、アメリカでのTNR事情、コーチングについて、など貴重なお話を伺うことができました。中でも印象的だったのが、学生向けのトレーニングが社会貢献度が高く、社会の関心も高まっているとおっしゃられていたことでした。

コースを通して、学生達が実際の手術技術はもちろん、野良猫管理における獣医師の役割と、その社会貢献度を知る機会があり、実習そのものが社会貢献につながるこのコースの在り方は、是非日本の大学や獣医師にも知っていただきたい素晴らしいものでした！



▲コースを支援するThe Joy McCann Foundationのページには、学生からの感謝の声が寄せられています。私達も感謝を込めてコメントさせていただきました！

Community Cat Management /野良猫管理は、今や獣医大学が真剣に研究に取り組み、講義にて学生に各論から実技までを教える科学的分野です！
是非、そのことを日本の獣医師にも知ってもらいたい！

そこで、2024年12月、レヴィー教授、ディングマン先生をお招きし、カンファレンスを大阪にて開催することに決定しました！

Conference on Humane Population Control for Companion Animals
JAPAN 2024

Spay Vets Japan主催　犬猫達の頭数管理カンファレンス2024

2024年12月1日(日)　開催決定！

野良猫管理を、獣医師が担うべき科学的議題として確固たる社会的意義を確立した大学教授達の言葉に触れ、是非、日本の獣医師・獣医大学・そして社会全体にも野良猫管理への姿勢を考えるきっかけとしていただきたいです！

演目・会場などの詳細は随時ホームページ、SNSで更新いたします。是非ご確認ください！

■文献紹介から「TNRがだめなら何がいいというのか？」

ホームページでは、Spay Vets Japanの理事メンバーが和訳読解し、当会の主張を根拠付けるもの、記事の内容を支持するもの、または議論の余地があるが興味深いものと判断した海外の学術情報を随時紹介しています。2023年末までに7件の文献を紹介しておりますが、中でもより多くの方に読んでいただきたい文献をご紹介します。

●解説

野良猫の殺処分 VS TNR の論争は長きにわたり繰り返されてきました。

しかし、過去に猫の根絶や除去を目指した駆除で効果的だったという結果はほとんどなく、一方でTNRでは、高密度で行えば顕著な効果が出るというモデル研究結果や、実際にシェルターでの殺処分減少や野良猫の個体数の減少が結果として実証されている（当会で紹介したNo.04/05の資料を是非ご覧ください）ことを、過去の実際のTNR反対事例や駆除事例も併せて紹介したこの資料は、TNRの有用性を強く支持する内容になっています。

フロリダ大学SNSで、「是非読んでほしい」資料として紹介されたこの記事に、私達も強く賛同しています。

昔から、「捨て猫」はシェルター施設の猫収容数のかなりの割合を占めており、95%を超える数字を報告している機関もある。近年のデータではかなり減少しているが、シェルター施設に収容される猫の大半は、依然として「捨て猫」に分類されるのが一般的である。収容された猫に殺処分以外の処分をもたらすことは、アメリカの複数地域において依然として課題であるが、ここ数十年、的を絞ったTNRプログラムを導入したことで、目覚ましい成果を上げるようになった。

とはいえ、最近『Biological Invasions』誌に掲載された評論家は、「地方、州、国の政府機関は、（強制力をもって）野外でのエサやりを禁止し、個体数管理の手段と称するTNRを終わらせるべきだ」と主張している。Lepczykらは、このやり方が「野外の野良猫の個体数をうまくコントロールする」ために重要だと主張しているが、TNRの禁止が個体数をコントロールする目的を達成できるという根拠はどこにも示していない。

このような自然保護団体のメンバーからのTNRへの反対意見は、今に始まったことではない。2010年、同じ著者の数名が『Conservation Biology』誌に書簡を発表し、野生生物および自然保護団体のメンバーらに対し、野良猫のコロニーやTNRを許可または促進するために打ち出された政策に異議を唱えるよう呼びかけた。この記事が掲載されて以来、自然保護団体のさまざまなメンバーがまさにそれを実行に移し、少なくとも1回は猫に毒を盛るべきだと公言した。

しかし、健康な動物をシェルターに収容し殺処分することへの倫理感、（殺処分を実行する）シェルタースタッフに係る（心理的）影響、公的支援に依存する政策立案者への影響をさて置いたとしても、TNR（による野良猫の管理）に代わる実現可能な（野良猫管理）方法を想像するのは難しかった。もっと率直に言えば「TNRでなくて何なのか？」。健康な猫を無差別に殺処分することは、それが効果的であるという証拠がないにもかかわらず、アメリカでは100年以上にわたって既定の「管理」手法となってきた。1985年の間だけでも、推定780万～1,290万頭の猫がシェルター施設で殺処分された。実際、殺処分によって野外で生息する猫の個体数を管理しようとする試みは、しばしば逆効果であることを示唆する経験的証拠も増えつつある。

【猫の根絶キャンペーン】

猫を（殺処分により）根絶しようとする取り組みが成功したのは、比較的小さな海洋島においてのみであり、それさえも裏目に出たことが知られている。このことは、数学的モデリングと経験的証拠の両方で実証されている。猫が根絶された最大の島である無人島マリオン島（290km^2）では、19年にわたり、猫汎白血球減少症、毒殺、狩猟、捕獲、犬などを駆使して、猫の根絶キャンペーンが実施され、推定2,100～3,400頭の猫が駆除された。（過去に猫の狩猟対象となっていた）海鳥のなかには、すぐに生息数が回復した種もあれば、猫根絶後のネズミの大量繁殖により、（ネズミの狩猟対象となったため）頭数の回復が見込めない鳥獣種もいた。島で最初に猫が殺されてから約50年後の2024年には、ネズミを根絶する計画が立てられている。同様のシナリオがオーストラリアのマッコーリー島（127km^2）でも展開された。

アメリカでは、根絶キャンペーンが真剣に提案されることはめったにない。しかしながら、2022年の立法会期中に提出されたハワイ州下院法案1987は、同州の国土天然資源省と外来生物審議会に権限を与えようとするものだった：「2025年12月31日までにカウアイ島、マウイ島、ハワイ島における野良猫の個体数を絶滅させる」。そしてその後の広範な証言（その大半は強い反対意見だった）の結果、上記法案は最初の委員会公聴会を通過することなく終わった。

【猫の除去】

猫の完全な根絶を求める声よりもはるかに一般的なのは「除去」を求める声であり、計画的な間引きを実行するか、公衆衛生上の問題や迷惑行為等に起因するとみなされる猫に対する殺処分を行う管理方法である。上述のハワイ州下院法案1987は、ハワイ諸島の3つの島から猫を絶滅させることを目的としていたが、オアフ島については、2025年12月31日までに個体数を50％減少させるという控えめなものであった。しかし、公衆衛生や野生動物を保護するためであれ、迷惑行為に起因する苦情対応であれ、猫の殺処分はしばしば効果がないことが証明されている。

例えば、タスマニアで活動している研究者たちは、「野良猫の低密度のその場限りの殺処分」は、その数を減らすのに効果がなく、「テリトリーを牛耳る猫が駆除された後には更に新しい（成猫の）個体が流入する」ために、実際には個体数増加につながる可能性があることを発表した。ニューカレドニアで行われた、高密度な除去に関する調査によると、38日間で36頭（10.6km^{2}の推定個体数の44%）の猫を除去したにもかかわらず、わずか3ヵ月後には「野良猫の相対的な生息数と密度に意味のある違いは観察されなかった」とされている。

動物関係機関による猫の引き取り（例えば、迷惑行為に起因する苦情対応）が、詳細な追跡調査を行うことはほとんどないが、このような取り組みが有意義な個体数削減を達成した事例はない。実際、多くの場合、今主流となっている不妊化措置（による野良猫の個体数管理）は、長年にわたる駆除政策の失敗から習って実施されたものである。根絶や除去による政策の失敗に関する記述が十分に文書化される中、TNRの利点を評価することは難しいことではない。

【TNRに対する反対意見】

TNRに対する反対意見が、根絶キャンペーンや除去のような直接的かつ速攻性のある個体数管理ではないのは明らかである。しかし、TNRの努力を妨げたり、それを全面的に禁止したりすることは、兼ねてより致命的な結果を招いている。

最近のコンピューター・モデリングによれば、「殺処分による除去」は（野外に生息する）猫の数を最大かつ最速で減少させるが、それは一貫して高い密度で実施された場合に限り、引き取りではなく殺処分をすることに費用を充て、地域社会で通常実施されるよりも高密度で実施された場合にのみ効果が期待できるとされている。そして、これまでの例が示すように、必要な密度を欠いた「殺処分による除去」は、長期にわたって継続しても効果がないことが分かっている。「殺処分による除去」とは対照的に、「TNR」は十分な期間にわたってより高い密度で実施すれば実行可能で費用対効果も高くなる可能性があることがモデル研究で示された。実証的な証拠がこれを裏付けており、的を絞ったTNRでは、猫の収容やシェルターでの殺処分が顕著に減少していることに加え、個体数の顕著な減少も見られている。　そして、「殺処分による除去」とは異なり、TNRは幅広い社会的支持を得ている。さらに、TNRは猫を元いた地域に戻すことで、特に社会から隔絶されてきたようなコミュニティにおいて、従来の保護活動に共通する不公平感を緩和するものであり、また、地域猫の世話人が地域猫と強い絆で結ばれていることを認識するものである。

とはいえ、TNRへの反対意見は様々な形で未だ根強く残っている。2008年のロサンゼルス市に対する訴訟の結果、市のTNRプログラムが一時的に停止されただけでなく、市の職員がこのようなプログラムについて議論すること、あるいは地元の非営利団体を通じてTNRに関する情報を住民に紹介することさえも禁じる差し止め命令が下された（2020年に解除）。2016年、ニューヨーク州公園・レクリエーション・歴史保存局は、ジョーンズ・ビーチ州立公園で長年続けられてきたTNRプログラムに参加していた23匹の猫を処分することに合意し、訴訟を終わらせた。私たちは、上述の法的紛争が鳥類やその他の野生生物を保護するという謳い文句の目的を達成したという証拠を知らない。実際、入手可能な以下の証拠によれば、この政策も裏目に出ている可能性が高い。ロサンゼルス・アニマル・サービスから入手したデータによると、差し止め命令が出されている間、同シェルターの幼齢猫の収容が大幅に増加し、2010年の8,818匹から2019年には13,000匹以上に増えている。

2018年、ハワイ州土地天然資源局は、ホノルルが提案した「野良猫」の不妊手術のための30万ドルの予算配分に反対する証言を行ない、同局が代替案を提示しなかったこともあり、この予算は全会一致で承認された。また、TNRの取組みに「実施後の厳格なモニタリング」を求めることで資金削減を図るという、少し違ったアプローチをとった者もいた。実施後のモニタリングは、野外に生息する猫の個体数を定期的に調査することでプログラムの効果を実証する貴重なデータを得ることができるが、（実際、）アニマルシェルターが必要な専門知識を有していたり、専門知識を有する者を雇う資金を有していたりすることは稀である（「殺処分による除去」における議論では、その効果を評価するためのモニタリングが求められたことはない。これは、「TNR後の厳格なモニタリングを行うべき」という懸念が本当にどれほど重要なのかという疑問を提起している)。

TNRの努力を台無しにする最も一般的な方法は、おそらく餌やり禁止である。これは、猫はエサがなければ散るだろうという考えに基づいた政策介入である。しかし、TNRプログラムを成功させるためには、野外に生息する猫に定期的にエサを与えることが重要で、（エサをやらないことは）根絶や除去キャンペーンと同様、その影響が逆効果になる可能性が高い。人間の近くに住み、（意図的かどうかにかかわらず）エサを与えられている可能性が高い猫は、より田舎やあまり騒がれていない地域に住んでいる猫（そのような地域はエサが豊富でない可能性が高い）よりも、捕獲するのがはるかに容易である。そして資源の豊富な都市部には、アメリカ国内の野外で生息する猫の75％が生息していると推定されている。さらに、野良猫と思われる猫に餌を与えることは、全米でよく見られる行為で（調査によって10～26％、）、エサやり禁止令の施行が課題となることが分かる。また、定期的に餌を与えられている猫は、餌を与えられていない猫よりも野生動物を殺す可能性が低いという研究結果も注目に値する。

【結論】

Lepczykらが行なったように、TNRを「効果はないが、政治的に有利な政策オプション」として切り捨てるのは間違いなく容易であるが、それは、それとは反対の証拠が増えつつあることを無視すれば、の話である。実際、著者らにとっても、このような証拠（TNRにより効果的な個体数の削減が実証された事実）を完全に無視することは難しいことがわかった。著者が効果的な個体数削減の唯一の例として挙げているのは、市を挙げてのTNRプログラムである。

ここに示された証拠からも明らかなように、致死的な方法を用いて野外に生息する猫の個体数を管理しようとする取り組みは、TNRプログラムを弱体化させようとする取り組みと同様、しばしば見当違いで逆効果であることが分かった。明らかに、TNRを弱体化させようとする取り組みは猫の福祉にとって有害であり、個体数の増加に伴って健康な猫の殺処分が大幅に増加する可能性が高い。また、入手可能な証拠から考えても、そのような取り組みが野生生物や公衆衛生に役立つとされる理由もほとんどない。 それどころか、猫の福祉を向上させ、野外に生息する猫の個体数を減らし、ひいては野生動物や公衆衛生を守るための的を絞ったTNRがしばしば唯一の実現可能な選択肢であることが、はっきりと示されているのだ。

Donation

沢山の方々からのご支援を賜り、誠にありがとうございます。当会の活動は皆様からの暖かいご支援により支えられています。今後とも何卒宜しくお願い致します。

外科トレーニングサポーターとして一般社団法人Happpy Tabby様にご支援頂くことになりました。

支援者様のご紹介（2023年度）

一般社団法人Happy Tabby 様
徳田竜之介 様
有限会社アメディコ 様
一般社団法人わんむすび 様
NPO法人ペット防災サポート協会 様
寺町動物病院 様
S.A 様
保護猫アンドゥ鈴子真佐美 様
m.K 様
J.S 様
Y.K 様
小林富美 様
H.K 様
竹井信恵 様
真鍋正嘉 様
内藤卓子 様
N.T 様
K.H 様

● 賛助会員募集

当会では、活動に賛同して頂ける方の賛助会員を募集しています。ご登録下さった方の企業名・ご芳名をホームページと会報誌にて紹介させていただきます。個人会員様は年間3000円、法人会員様は年間10,000円のご支援をお願い致します。頂きましたご支援は、行き場のない命をこれ以上増やさないための活動に使わせて頂きます。（獣医師へのトレーニング事業など。）
詳しくは**コングラントホームページ**をご参照ください。

コングラントHP

ご寄付のお願い

口座名称　**一般社団法人 Spay Vets Japan**

三井住友銀行　八尾支店　店番号 **161**　普通預金 **2327086**

ゆうちょ銀行　郵便振替　口座番号 **00990-7-284710**

Spay Vets Japan